

第3学年 国語科 学習指導案

滋賀大学教育学部附属中学校 教諭 永田 郁子

1. 単元名 「びわ湖を愛する」を豊かな・たしかな言葉で
～未来の「びわ湖の日」のための啓発リーフレットづくり～
2. 単元の見積
・和語・漢語・外来語などを使い分けを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。（知識・技能）(1) イ
・目的や意図に応じた表現になっているかななどを確かめて、文章全体を整えることができる。（思考・判断・表現）B (1) エ
・言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。（主体的に学習に取り組む態度）

3. 単元について

(1) 教材観

令和3（2021）年度より完全実施となる中学校学習指導要領（平成29年告示）では、第3学年の「思考力、判断力、表現力等」の「B 書くこと」の言語活動例に「イ 情報を編集して文章にまとめるなど、伝えたいことを整理して書く活動。」が示されている。解説国語編には、その作成例に「新聞、リーフレットやパンフレット、発表ための資料」が挙げられており、令和3年版の検定教科書には修学旅行記やポスター、環境に関する新聞の作成などの学習活動が設定されている。また、「C 読むこと」の言語活動例には「ウ 実用的な文章を読み、実生活への生かし方を考える活動。」が示されている。「実用的な文章」の例には「広告、商品などの説明資料、取扱説明書、行政機関からのお知らせ」などが挙げられている。

これらのことから、今回は、「実用的な文章」を読み、そこから情報を編集して、さらに自身で「実用的な文章」にまとめるという単元構成を目指し、滋賀県の条例をもとにした啓発リーフレットを作成するという学習活動を設定した。滋賀県には国内最大の湖である琵琶湖があり、琵琶湖の環境保全に関する条例が多く制定されている。第3学年に求められる国語力を育成しながら、義務教育修了後の環境保全への当事者意識を高めることができる教材であると考えたい。

(2) 生徒観

生徒は令和元年度、「A 話すこと・聞くこと」「B 書くこと」の学習として、大津市立歴史博物館副館長（当時）・和田光生氏のインタビューを行い、その内容をもとに紹介記事を作成するという活動に取り組んだ。積極的に質問を考え、取材相手の回答に応じてさらに質問に磨きをかけるという学習活動の中で、地域の文化への素直な興味や、文化財保護への関心を示していた。

また、第3学年の1学期には社会科の地理的分野で近畿地方がとりあげられ、環境問題や環境保全を中核とした考察が課せられ、滋賀県の「石けん運動」に関する学習をした。総合的な学習の時間「BIWAKO TIME」（異学年合同でグループを組み、各自のテーマに沿って調査研究を行う探究的学

習)を終えたばかりであり、それぞれの成果・課題を意識している時期である。

一方で、県で制定されている「びわ湖の日」(7月1日)の認知度や、地域の清掃活動等への参加率などは低い。研究の場面はあっても、環境に対して実生活の中で行動に移すという実践の場面に乏しいのが現状である。

(3) 指導観

以上のことをふまえ、「石けん運動」が、県民間での呼びかけによって広まり、条例の制定・施行にまで発展し、さらに条例が広報されるという一連の流れを好例とし、現在ある滋賀県の環境保全に関する条例をもとにした啓発リーフレットの文章づくりをとおして、「他者に『行動をうながす』際に適切な言葉のはたらきはどのようなものか」を「単元を貫く問い」として設定した。生徒たちが23、24歳である2029年の「びわ湖の日」(7月1日)は日曜日である。この日を美しい琵琶湖のほとりで過ごすためにどのような行動を呼びかけるのかをテーマにし、「社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力・想像力を養う」という国語科の資質・能力の育成につなげたい。

(4) ESDとの関連

・本学習で主に養いたいESDの視点

【B 相互性】滋賀県の環境保全に関する条例と自分たちの生活との関連に目を向け、琵琶湖を中心とした県内の自然や、産業への関心を高める。

【E 連携性】リーフレットの下書きの文章について課題となる点を指摘しあい、それをもとに自分の文章を粘り強く推敲することで、協力をもとに課題を解決し、最後までやり遂げる力を養う。

・本学習で育てたいESDの資質・能力

【コミュニケーションを行う力】単元の目標を達成するまで複数回の交流が設定されている。

【進んで参加する態度】条例にある「県民の責務」の記述にふれることで当事者性が高められる。

・本学習で変容を促すESDの価値観

【自然環境、生態系の保全を重視する】リーフレットに使用する「事例」を様々な資料から探索する過程で、琵琶湖及びその周辺の自然環境についての様々な情報にふれ、その有効性を吟味する。

【幸福感に敏感になる、幸福感を重視する】未来の郷土を想像し、啓発したい内容を決定する。

・達成が期待されるSDGs

目標4 すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。

(とくに「環境学習の推進に関する条例」を選択する生徒に関して)

目標12 持続可能な消費と生産のパターンを確保する。

(とくに「低炭素社会づくりの推進に関する条例」を選択する生徒に関して)

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①和語、漢語、外来語などを使い分けることを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	①「書くこと」において、目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめて、文章全体を整えている。	①自分の伝えたいことが伝わる文章になるように粘り強く工夫をし、学習課題に沿ってリーフレットの文章を書こうとしている。

5. 単元の指導計画（全6時間）

節	時程	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1 次	第1時	○単元の目標を知り、「行動を呼びかける」際に意識したい言葉の使い方のポイントを挙げる。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の目標を示すまでに、「石けん運動」から「琵琶湖の富栄養化の防止に関する条例」施行までの流れをスライドで示す。 ・「こんなリーフレットはいやだ」と思うポイントをグループで出させる。一斉交流の中で発表させ、リーフレットを作成するうえで適切な言葉の使い方を考えさせる。 ・『琵琶湖を愛する』で思い浮かぶ行動」を付箋に書かせ（5枚）、実生活と琵琶湖とのかかわりをイメージさせる。 	△ウ① （観察） （ふり返り用紙）
	第2時	○条例文集の中から、自分がとり上げたい条例を決める。決めた条例を説明する際に有効な事例を資料から探す。	<ul style="list-style-type: none"> ・琵琶湖の環境保全に関する主な条例のうち、以下の条例を抜粋した条例文集を配布し、取り上げたい条例にマーカーを引かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ○環境基本条例 ○ごみの散乱防止に関する条例 ○環境学習の推進に関する条例 ○琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例 ○ふるさと滋賀の風景を守り育てる条例 ○ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例 ○低炭素社会づくりの推進に関する条例 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館からブックトラックに参考図書を五十冊ほど移し、教室に設置する。 	△ウ① （観察） （ふり返り用紙）



2 次	第3時	○「行動を呼びかける」にはどのような表現の仕方、事例の用い方が適切かを考えながら、リーフレットの文章を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・第1時でとりあげたポイントを掲示する。 ・実際に配布されているリーフレットを紹介し、下書き用紙に文章を書かせる。 	<p>△イ① (下書き)</p> <p>△ウ① (観察) (ふり返り用紙)</p>
	第4時	○グループでの交流で文章の内容を確かめ、文章全体を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・推敲のポイントをフラッシュカードにし、黒板に掲示する。 ・4人グループで下書き用紙をまわしながら、直したほうがよいと考える箇所を付箋で示させる。その際、付箋にどの観点のものなのかを明記させる。 ・推敲計画の用紙に、自分の文章の中での直したほうがよい点と、どのように直せばよいかの見通しを書かせる。 	<p>△イ① (下書き)</p> <p>△ウ① (観察) (ふり返り用紙)</p>
3 次	第5時	○和語、漢語、外来語の語感を生かした見出しを考える。 ○「リーフレット企画提案書」・評価ルーブリックを配布し、清書をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・秋休みの間に各自でスクラップをした新聞記事の見出しをもとに、和語・漢語・外来語の語感がどのような効果を持っているかを4人グループで確認し合う。 ・どのような効果を期待をしてどのように下書き用紙の文面を推敲したのかを記入する欄を設け、作成の過程を可視化し、評価に生かす。 	<p>△ア①</p> <p>△イ① (企画書)</p> <p>△ウ① (観察) (ふり返り用紙)</p>
4 次	第6時	○クラス全体での交流をもとに、自分の見出し・文章のよい点や改善点を見出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートを机上に並べ、立ち歩いて閲覧できるようにする。気づいたことをYチャートに記入させる。 	<p>△イ① (Yチャート)</p> <p>△ウ① (観察) (ふり返り用紙)</p>